

平成23年度「未来の京都創造研究事業」成果報告会及び交流会の開催報告

～今年度の調査・研究成果を広く発信するとともに、若手研究者と市民等との交流を行いました～

成果報告会の部

日時：平成24年3月22日（木）午後6時～8時10分

場所：キャンパスプラザ京都 4階第3講義室

参加者：合計101名（研究発表者8名、市担当部署11名、市民25名、教員2名、学生14名、市職員17名等）



発表1
「家族介護者の仕事と介護が折り合う環境（ワーク・ケア・ライフ・バランス）の実現に向けたニーズ分析と支援策の課題」（斎藤真緒・立命館大学准教授）：なかなか表には現れない介護のために退職せざるをえなかった人たちの苦労や希望を明らかにするなど、今後の介護支援に生かせる基礎データを得ました。



発表2
「伝統芸能における市民参加型の活動に関する研究」（高島知佐子・京都外国語大学講師）：地域活性化のためには住民たちの積極的な参画が必要です。京都市内の各地域においてまちづくりと伝統文化の関係について調べ、伝統文化を続ける際の課題や小中高校での実際の取組を紹介しました。



発表3
「京都市における食品リサイクルの経済・環境評価」（波多野佑美・京都大学大学院修士課程）：生ごみ対策として現状の焼却処分よりもバイオガス化施設の新設が環境にも経済的にも有利であるとのシミュレーション結果を公表しました。



発表4
「路地の鉢植えのあふれだしによる市民の育む緑」（水上象吾・佛教大学講師）：京都市内の路地沿いには緑が少ないことを緑視率という指標を用いて示すとともに、少ない緑を補うためには鉢植えが有効であり、心の潤いの増加にも貢献するというを示しました。

交流会の部

時間：午後8時15分～9時10分

場所：キャンパスプラザ京都 5階第3・第4演習室

参加者：合計39名（研究発表者8名、事業運営委員6名、市担当部署11名、市民1名、学生7名等）



介護休業を取りたくても取れないのはなぜ？
大企業なら余裕があるけど、京都市内ではほとんどが中小企業だから・・・

自宅の緑の世話をしている人は社会に対しても関心があり、まちづくり活動などにも参加しているようだ。市も応援している。



京都は国際観光都市なので、ホテルや旅館などからの生ごみが多いようだ。ごみ削減とリサイクルにみんなもっと関わってほしい。



子供が伝統文化に触れる機会を充実・継続させるためには「学校運営協議会」の存在が鍵になるのではないかと。京都には地域ぐるみで子どもを育ててきた伝統がある。

交流会の冒頭は軽食を食べつつ名刺交換や懇親を図り、その後、4テーマごとのテーブルに分かれてざっくばらんに意見交換しました。最後には、4研究者から意見交換の議論も踏まえ、半年間研究を行った素直な感想とこれからの研究の進展の可能性を発表してもらいました。

門川大作・京都市長も出席し、熱心な討議に加わっていただきました！